

JA長野県グループ JA自己改革取組みの成果

(抜粋)

JA長野県グループでは、平成25年から30年までの6ヵ年において、「農業所得の増大」「安心なくらしと地域社会づくり」「組合員と地域の願いを実現するJAづくり」「組合員、消費者、役職員の共感醸成」に向けた取り組みを進めてきました。特に平成28年のJA長野県大会では、「農業所得の増大」「組合員が主役のJAづくり」に向けた、JA自己改革の実践を決議し進めてきました。令和元年5月の農協改革集中推進期間終了を迎え、JA長野県の自己改革の成果を抜粋して振り返ります。



JA名	代表的な取組成果
JA長野八ヶ岳	<p>平成30年度の販売金額288億円となり、うち野菜の売上金額は253億円と6年連続で200億円を超えた。</p> <p>生産購買事業(肥料・農薬・農機等)について、JA独自の奨励金(10,042万円)を実施し、価格抑制への取組を行った。</p>
JA佐久浅間	<p>「花卉果樹振興センター」を設置し、生産振興計画の立案や新規栽培者の獲得、新品目の導入などに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごフェザー苗木の育成・導入(1,500本) ・果樹生産面積7.8haの拡大 <p>地域ごとの重点振興品目の出荷数量を数値化し、今後の生産振興拡大と経営指導に役立て、ミニトマト(1,030千パック)、信州蓼科牛(1,500頭)と、生産拡大に寄与した。</p> <p>特に、ミニトマトは生産量長野県下1位であり、販売額2億5千万円を目標に生産振興拡大に取り組んでいる。また、営農指導員・営農経営アドバイザーの育成に努めるとともに、一括仕入れや品目別利用奨励(奨励金額:25,576千円)により農業者の所得拡大に向けて取り組んだ。</p>
JA信州うえだ	<p>JA農業支援プランを活用した生産基盤強化として、平成28~30年度で、471件50,224千円の支援を実施した。事業規模としては、299,203千円。利用が多いものとして、ブロックリーや花きの生産拡大に向けた苗助成173件、ぶどう棚修繕や新しい化栽培の促進として108件、パイプハウスや自然災害に強い農業に向けた施設の導入76件などである。</p> <p>大口農家等への直接配送や農家訪問を通じた予約注文利用拡大に取り組んだ結果、平成28~30年度で、肥料・農薬に関しては、自己取り値引き19,387千円、大口奨励20,133千円の利用還元をした。また、グリーンファーム店での現金購入者のポイント利用還元に関しては、14,654千円の値引きを行った。</p>
JA信州諏訪	<p>(1) 営農関連</p> <p>がんばる農家応援事業・融資で後押しがんばる農家応援事業 施設建設に要するコストをJA助成により2割程度低減。農業振興、生産数量の拡大、気象変動に対応した「良品質」「安定生産」に貢献。3ヵ年累計215棟(野菜99棟・花き116棟)を実施。</p> <p>* がんばる農家応援事業(JAでハウス等施設を建設し、利用料を助成)・融資で後押しがんばる農家応援事業(ハウス等の施設を建設した際の資金を助成)</p>

JA名	代表的な取組成果
	<p>農機レンタル事業 組合員の農機具取得に要する負担軽減のため、JA共済からの助成により「自走式畦畔草刈機購入支援事業」や農業機械レンタル事業を実施。畔草刈機では120台に助成し、農機レンタル事業では3ヵ年でミニ耕運機39回、刈払機4回、トラクター34回、ハンマーナイフモア34回、わら切カッター34回の利用実績。</p> <p>生産資材コスト削減 組合員の生産資材コスト削減に向け、大型企画農薬「デカぞう君」マーク品の推進や、仕入れ方法の見直し、入札方式を導入し、生産資材価格の低減に取組み。予約品では約8割で他店より安いという調査結果。</p> <p>農業融資 農業融資専任職員を配置し、就農相談の段階から金融職員が同席。アクションプラン(農業メインバンク機能強化)を推進し、農業融資残高 平成27年度4億400万円 平成30年度9億5千300万円に235%の増加。また、日本政策金融公庫資金「青年等就農資金」では3ヵ年で約1億5,000万円実行し、新規就農育成支援に貢献。</p> <p>(2)地域貢献関連</p> <p>地域の小学校で食農教育 平成29年度に岡谷市長地小学校5学年児童と「コメ」「ソバ」「大豆」の3大穀物づくり、翌30年度は同校と諏訪市豊田小学校で稲作を実施。また、茅野市金沢小学校では、菊愛好家の組合員が指導役を務め29～30年度に大輪の菊づくりに挑戦し、諏訪大社上社奉獻菊花展に出品。</p> <p>女性地域リーダーの養成 平成28年度より女性大学を開設。</p>
JA上伊那	<p>生産者が導入する施設や機械の費用を助成して、規模拡大や生産性向上を支援</p> <p>農業生産施設拡大支援事業「+10(プラステン)」 高い収益性が見込める園芸6品目(りんご、ぶどう、アスパラガス、きゅうり、アルストロメリア、トルコギキョウ)の生産拡大支援 ・(H28～30年度)145件 2億5,076万円支援 支援による拡大面積 17.6ha ・今後の販売高は約3億8,000万円の増加を予想</p>

JA名	代表的な取組成果												
	<p>農業振興生産拡大支援事業「未来A - サポート」 園芸から畜産まで幅広い品目を対象にした生産拡大支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(H28～30年度) 918件 1億4,800万円支援 ・販売実績は約2億円の増加 												
JAみなみ信州	<p>第3次3年目の「ネクスト・アグリ・プラン」の実施をした。 (平成30年度;2,907万円の支援)</p> <p>【果実】新ワイ化りんご栽培用(高密度植栽培)のフェザー苗育成 3,930本、新ワイ化導入支援 1件、振興品目苗木(161件)の支援、柿大型農家支援 14件、粉だし機他導入支援 10件を実施した。</p> <p>【農産】野菜では施設化支援を主力に、85aのハウス、75aの養液土耕の支援とアスパラ面積拡大苗支援 25,970本を実施した。花きでは施設化支援として3aのハウスおよび養液土耕・暖房施設等 12件の設置と、49,304本のダリア他、重点品目苗導入支援を実施した。</p> <p>【きのこ】生産基盤維持拡大対策としてピン 5,000本、キャップ 5,000個、新技術対策としてミックス培土 1,280tと新形態包装机への支援を実施した。さらに安全・安心対策として金属探知機 19機の支援を実施。</p> <p>【畜産】みなみ信州牛ブランド確立のため素牛 508頭、養豚生産団地形成のため種豚 268頭の導入支援、繁殖和牛増産支援、生乳増産支援を実施した。</p> <p>2年に亘る行政・JETORO(日本貿易振興機構)と連携した海外での販売促進・海外マーケティング調査を経て、平成30年度においてはJAみなみ信州主導で「市田柿海外輸出プロジェクト」を立ち上げ、輸出拡大に向けて取り組みました。前年度までの輸出先台湾・香港に加え、平成30年度はシンガポール・タイなどに展開した。</p> <p>< 市田柿輸出量 ></p> <table border="1" data-bbox="454 1512 1428 1702"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸出量</td> <td>25.6t</td> <td>35.0t (前年比 136.1%)</td> <td>51.4t (前年比 146.8%)</td> </tr> <tr> <td>輸出金額</td> <td>5,630万円</td> <td>7,700万円</td> <td>1億1,300万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>正組合員全戸訪問の実施</p> <p>組合員との対話運動を通じて、組合員の実態・ニーズを適切に把握し、組合員に評価される事業、活動を展開するとともに、組合員とのつながりの強化に向けて「正組合員全戸訪問運動」を平成30年10月～11月にかけて実施した。正組合員世帯 13,917世帯(平成30年度期首時点)に対して、11,349</p>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	輸出量	25.6t	35.0t (前年比 136.1%)	51.4t (前年比 146.8%)	輸出金額	5,630万円	7,700万円	1億1,300万円
	平成28年度	平成29年度	平成30年度										
輸出量	25.6t	35.0t (前年比 136.1%)	51.4t (前年比 146.8%)										
輸出金額	5,630万円	7,700万円	1億1,300万円										

JA名	代表的な取組成果
	<p>世帯に訪問することができた(面談率 81.5%)。正組合員全戸訪問時にいただいた意見・要望をJA運営や3ヵ年計画へ反映させるため、事業部・支所において検討会を開催した。また、検討会の内容を支所便り等通じて組合員へフィードバックした。</p>
JA木曾	<p>農業開発基金を活用した農業振興支援事業として、総事業費9,232千円の農業関連支援事業を実施(平成28～30年度)。</p> <p>1)新規園芸花卉ハウス導入支援、2)新規インゲン及び奨励品目種代助成、3)和牛子牛導入支援、4)花卉苗、球根代助成、5)農業機械導入支援</p> <p>アンパンマンこどもくらぶを通じて(平成28～30年度:延べ578名)子育て・地域づくりへの支援を行った。</p>
JA松本市	<p>農機具等購入応援事業として、13台・7,734千円の支援を実施し、農業生産増加に寄与した。</p> <p>小規模な農産物生産者グループに対する指導・助成として、「松本里芋出荷組合」への活動支援を実施した。</p> <p>地域農業の応援団の拡大を図るため、地域の皆さんの「食」と「農」に対する理解を深めることを目的とした食農教育の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「松本一本ねぎ」の苗植えから収穫・調理までの体験学習。延べ参加人数519名。 ・「豆腐づくり体験」。延べ参加人数245名。
JA松本ハイランド	<p>平成27年1月に「JA松本ハイランドの自己改革」を策定し、継続して取組みを進めている。</p> <p>「農業者の所得増大」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 販売開発課の設置による品目横断的総合販売事業の実践(総合販売フェアの実施、青果物運賃の独自交渉等) 2) 直接販売の拡大による農家手取り強化(30年度実績:31.9億円、直売比率16.5%) 3) 生産資材の安定供給と競争力の強化(農薬価格の値下げ 加重平均2.85%、予約品226/446値下げ、各種助成対策の取組み等) <p>「農業生産の拡大」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関係機関との連携による担い手対策の取り組み(農地中間管理事業への農地集積573ha、農福連携事業による農作業支援 支援回数332回等) 2) 地域農業振興ビジョンによる総合多目供給産地づくり(米のJA集荷目標・生産調整面積比率の設定等)

JA名	代表的な取組成果															
	<p>3)JA バンクによる支援事業の取り組み(長野県 JA バンク県域サポート事業の導入)</p> <p>「地域の活性化」</p> <p>1) 食育の実践(夢あわせ農園・「よい食パク博」の実施等)</p> <p>2) 講座や女性部など地域住民と一体となった取り組み(はつらつ大学・男のつどい・若妻大学等)</p>															
JA塩尻市	<p>安定的な収入確保ができる契約販売の強化</p> <p>販売実績では、レタスの大玉コンテナは、29年度 31,500 ケース、30年度 35,800 ケース。8玉コンテナでは、29年度 70,600 ケース、30年度 69,100 ケース。また、新品目として、サニーレタス、アスパラ(Lバラ)の契約販売を開始した。</p> <p>生産基盤強化、コスト削減への取り組みとして、機械設備、施設への投資を積極的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要のある品目(ブロッコリー)の生産拡大に向け、品質安定のために製氷機2台を導入。 ・結束支援体制強化のためアスパラガス選果機1台、電動結束機2台を導入 ・資材コスト軽減策として、出荷用コンテナ3,000枚を購入 ・出荷者の労力軽減・利便性確保のため、園芸流通センター荷造り支援作業場の改修(1,340万円) 															
JA洗馬	<p>農業振興ビジョンによる助成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくり事業(稲わら・堆肥等)実績 468万円 ・被覆資材への助成(1本価格の35%を助成 実績 127万円) ・ハウス導入の購入費助成(購入費の1/8以内 43万円) <p>就農支援準備金として、新規2名に対して、200万円を交付した。</p>															
JAあづみ	<p>夏秋イチゴの生産拡大</p> <p>1)夏秋イチゴを最重点品目に位置付け、新規就農希望者が栽培技術などを習得できるように、子会社と連携して新規就農者育成事業を展開。後期中期計画の目標販売額3億円を達成。</p> <table border="1" data-bbox="395 1742 1406 1937"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栽培面積</td> <td>285a</td> <td>433a</td> <td>516a</td> <td>650a</td> </tr> <tr> <td>販売額</td> <td>1億8,900万円</td> <td>2億5,400万円</td> <td>3億2,100万円</td> <td>3億6,900万円</td> </tr> </tbody> </table>		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	栽培面積	285a	433a	516a	650a	販売額	1億8,900万円	2億5,400万円	3億2,100万円	3億6,900万円
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度												
栽培面積	285a	433a	516a	650a												
販売額	1億8,900万円	2億5,400万円	3億2,100万円	3億6,900万円												

JA名	代表的な取組成果
	<p>2)夏秋イチゴ産地 PR のため、生産者と消費者が一緒になった料理教室を JA 農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」に併設する食育ルームで実施。</p> <p>3)生産者と酒造業者が一緒になり、夏秋イチゴと県オリジナル米「風さやか」の純米酒をブレンドした、リキュール「莓酒」を開発し、JA 農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」などで販売した。</p> <p>大型農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」による地産地消を展開 安曇野スイス村ハイジの里を平成 28 年 6 月にオープン。総取扱高は、4 億 2 千万円を超えた。エコファーマー部会(31 名)の立ち上げや、出荷者向けの「野菜づくり学習会」を開催するほか、併設する食育ルームでは、地域の子どもたちを中心とした食農教育として「あづみのキッチン(料理講習会)」を定期的に開催している。(平成 30 年度 30 回)</p>
JA大北	<p>農業開発基金事業として、総事業費 27,645 千円の農業関連支援事業を実施(平成 28～30 年度)。</p> <p>・新規資材助成:166 名、新規種苗助成:19 品目、共同利用機械購入:9 台の支援を実施した。</p> <p>大口利用奨励として、38,600 千円の奨励金支出を実施した。(平成 28～30 年度)</p> <p>肥料特別対策として、24,000 千円の価格対策により支援を実施した。(平成 28～30 年度)</p>
JAグリーン長野	<p>JA独自事業による生産維持・振興</p> <p>JA独自の農業開発事業「農業開発積立金」を活用し、「生産振興農家支援対策」「果樹高品質安定対策」「生産基盤強化対策」「生産資材利用高奨励」に取り組み、担い手をはじめ、生産規模拡大等を図る農家など多くの生産者の農業生産増加に寄与した。(活用戶数 9,523 件 活用実績 1 億 1,966 万円)</p> <p>直売所をはじめとした直販の強化</p> <p>A・コープ店内直売所「グリーンスマイル」、JA直売所をはじめ他スーパーマーケット内直売コーナーにおける農産物の取扱拡大へ、直売会と連携したイベント等の開催・レジシステムの変更・基盤強化への設備投資等を行い直売管理の徹底、運営の効率化をはかり直売所の充実による農家の手取り向上につとめた。</p> <p>(平成 28～30 年度)</p> <p>・A・コープ直売会販売高 21 億 8,950 万</p>

JA名	代表的な取組成果
	<p>・レジシステム 松代農業総合センター 販売時点情報管理(POS)システム</p> <p>・施設整備 A・コープファーマーズ篠ノ井店改装オープン 直売所面積の拡張</p> <p>予約購買等による生産資材経費の負担軽減 「施肥防除の手引き」を基本とした年間特別予約(年特)と、肥料・農薬における重点品目の設定による価格の引き下げを実施。さらに「利用高奨励」や農業開発事業「農業開発積立金」と連動した供給を行い、生産者の生産資材経費の負担軽減を図った。</p> <p>・価格の引き下げ 肥料 11品目 農薬 38品目</p> <p>・利用高奨励 4,066件 還元額 3,492万円</p>
JA中野市	<p>農業振興事業</p> <p>・果樹の難防除病害対策(対象農薬の購入費用助成:32,282千円 補助額3,228千円)</p> <p>・生産基盤強化と安定生産、所得向上に向けた支援対策(施設並びに加温施設の被覆資材の購入費用助成:38,390千円 補助額7,659千円)</p> <p>・果樹品目生産拡大品種振興事業(シナノリップ、百年ふじの苗木の購入費用助成:2,961千円 補助額609千円)</p> <p>金融事業(農業の魅力を経済利用者へPR)</p> <p>・住宅ローン利用者向け果樹オーナー制度:オーナーは24先(62名が収穫祭参加)</p> <p>地域と農でつながる事業</p> <p>・協同組合活動の理解促進とJA運営への参画に資する学習会、研修会の実施:36回 延べ701名の参加</p>
JAながの	<p>平成28年秋の合併に際しJA自己改革を包含し、合併事業計画で掲げた最重要課題である「3+1」を目標にすえ、1. 営農指導の強化 2. 販売事業の強化 3. 資材コストの抑制 + 安心して暮らせる地域社会づくりの着実な実践に向け、組合員、利用者の声を受け止めながら進めた。</p> <p>営農指導の強化 技術員の持つ技術の高位平準化をめざし「広域技術員」を果樹、野菜、水稲、花卉、きのこ等農産物ごとに設置(10名)。</p> <p>販売事業の強化 市場外流通・JA間取引の拡大連携(姉妹提携35JA)とイベントによる広報、輸出取引の拡大、直販比率の向上など販売強化を図った。</p>

JA名	代表的な取組成果																													
	<p>【海外輸出】 ぶどうを中心に香港、台湾、シンガポール、タイ等に青果市場経由で輸出</p> <table border="1" data-bbox="446 331 1232 430"> <thead> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>502,906 千円</td> <td>520,367 千円</td> <td>530,459 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市場外流通】</p> <table border="1" data-bbox="373 524 1426 860"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市場外流通金額</td> <td>6,380,068 千円</td> <td>6,723,822 千円</td> <td>7,107,292 千円</td> </tr> <tr> <td>(うち農産物直売所販売額)</td> <td>2,045,490 千円</td> <td>2,137,090 千円</td> <td>2,261,260 千円</td> </tr> <tr> <td>(うちJA間流通)</td> <td>118,213 千円</td> <td>123,629 千円</td> <td>128,050 千円</td> </tr> <tr> <td>総販売高に対する比率</td> <td>20.55%</td> <td>22.70%</td> <td>23.98%</td> </tr> </tbody> </table> <p>資材コストの抑制 果樹及び水稲の低コストオリジナル肥料を開発し、肥料当用価格の低減(旧銘柄より果樹 13.1%、水稲 13.5%)を実現した。</p> <p>安心して暮らせる地域社会づくり 多様化する組合員ニーズに対応するため各事業では組合員との関係強化をめざし、訪問活動の強化。施設の充実、また意思反映できる機能とし総代懇談会等を定期的に開催した。</p>				平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	502,906 千円	520,367 千円	530,459 千円		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	市場外流通金額	6,380,068 千円	6,723,822 千円	7,107,292 千円	(うち農産物直売所販売額)	2,045,490 千円	2,137,090 千円	2,261,260 千円	(うちJA間流通)	118,213 千円	123,629 千円	128,050 千円	総販売高に対する比率	20.55%	22.70%	23.98%
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度																												
502,906 千円	520,367 千円	530,459 千円																												
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度																											
市場外流通金額	6,380,068 千円	6,723,822 千円	7,107,292 千円																											
(うち農産物直売所販売額)	2,045,490 千円	2,137,090 千円	2,261,260 千円																											
(うちJA間流通)	118,213 千円	123,629 千円	128,050 千円																											
総販売高に対する比率	20.55%	22.70%	23.98%																											
JA 中央会・連合会	<p>(中央会) 農業開発基金について、3カ年で1.5億円を県域組織で造成し、JAの取り組みに対し助成した。JA事業費とあわせ、8億円を地域農業振興に関わる事業に投資した(事業対象面積 234ha、畜種合計 14,669 頭、ハウス施設 180 棟、果樹苗 34.7 万本、野菜・花卉苗 666 万本)。事業効果の積み上げについては、販売品販売高の押上げ効果 83 億円、農家手取りの押上げ効果 55 億円と推定されている。 新規就農総合支援基金については、平成 28 年からの 3 カ年で 2,800 万円を助成し、11JA109 名で活用された。</p> <p>(信連) 県域独自事業として、「長野県JAバンク県域サポート事業」を実施(平成 28～30 年度)。農機具購入応援事業を中心に積極的に対応。農機具・パイプハウス等の購入(1,053 件)に対し、約 657,683 千円を助成。担い手の規模拡大・農業生産の効率化に寄与した。</p>																													

JA名	代表的な取組成果
	<p>信連主催の商談会を東京にて開催、長野県の農産物・加工品を広く情報発信し、JA・農業法人等の販路拡大・農業者の所得向上に寄与した。なお、実績では3年間(平成28～30年度)で延べ116先が出展、1,048件の商談が行われ、うち72件が当日中に成約。</p> <p>(全農) 農業機械のコスト低減の取り組みとして、低価格モデル大型トラクターの共同購入に組み込み、累計供給台数は56台となった。(平成30年度末) 農薬コスト低減の取り組みとして、担い手向け超大型規格の農薬(水稻剤)を提案推進し、1,943haまで拡大した。</p> <p>(厚生連) 利用者の療養環境改善並びに時代に適用した医療提供体制強化を図るため、総額670億円を超える病院再構築事業(基幹病院の全面改築)を、収支計画の範囲内で、経営健全性を確保しながら実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久総合病院(佐久医療センター含む) :290億円 ・浅間南麓こもろ医療センター :72億円 ・北アルプス医療センターあづみ病院 :51億円 ・北信総合病院 :90億円 ・南長野医療センター篠ノ井総合病院 :118億円 ・富士見高原医療福祉センター :53億円 <p>(共済連) JAの事務負担軽減ならびに利用者の利便性向上を図るため、携帯端末機(Lablet's)の配置をすすめ、分かりやすく・迅速な手続きを実現するとともに、ペーパーレス・キャッシュレス手続きの定着化を図っている。そのなかで、JAの事務負担軽減の状況については、例えば、終身共済の契約申込手続きにかかる業務時間が書面からペーパーレス手続きへの変更により、1件あたり57%の時間短縮を確認している。</p> <p>平成28年から30年度の3か年累計額で5億5,987万円(うち農業関連支出約3億2,000万円)を「地域・農業活性化積立金」としてJAに交付。(農機具を購入した組合員への助成、農産物のPR活動、新入学児童を対象に安全傘の寄贈等に活用されている。)</p>